

所属・資格 中国語中国文化学科・准教授

申請者氏名 大川 謙作

研究課題		チベット社会史像の再検討（その2）
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、1959年まで存続した旧チベット政府統治下のチベットの社会構成を明らかにすることである。近年公開されつつあるチベット語資料や、1950年代に実施された中国社会学者たちのチベット社会調査記録、さらには老世代へのインタビューのデータなどを資料として用いる。これらの資料は従来十分に利用されてこなかったものであり、また文献調査と現地調査を併用するという多角的なアプローチを採用することによって、未開拓であったチベット社会史研究を一段高いレベルに引き上げることが可能になる。
	研究の結果	昨年度同様、1950年代に実施された中国社会学者たちによるチベット現地調査報告である『藏族社会歴史調査』を基礎史料としたチベット旧社会構造の再構築作業を行うとともに、本年度は特に東北チベット（アムド地方）における中華民国時期のチベット・漢人関係の研究に重点を置いた調査を行った。結果として、中国におけるチベット学が民国時期に既に一定の成果をあげていたことを明らかにし、中国の初期チベット研究がこうした知識をもとにして構築されていたことを指摘した。
	研究の考察・反省	概ね順調に研究は進展している。ただし業務の煩瑣化に忙殺されて、今年度になって新たに利用可能になった新史料（『清代西藏地方政府档案文献選編』）の詳細な分析にまでは手が回らなかったことが反省点である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※ この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 研究発表 ・Kensaku Okawa, "As a Blurring Genre: Current State of the Study on Modern Tibetan Literature in Japan", 首届藏學工作坊、中国人民大学（北京）、2018年6月17日 研究成果物 ・『セルニャ：チベット文学と映画製作の現在 Vol.6』、東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2019年3月（共編）。 ・「チュシュル・テンバ・ツェリンとチベット神霊論」、『セルニャ：チベット文学と映画製作の現在 Vol.6』（東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）所収、2019年3月（単著）。 ・「失われた辞典：青海藏文研究社と黎明期中国チベット学の一断章」、『セルニャ：チベット文学と映画製作の現在 Vol.6』（東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）所収、2019年3月（単著）。 ・ペマ・ツェテン著（大川謙作訳）「赤いネッカチーフ」、『セルニャ：チベット文学と映画製作の現在 Vol.6』（東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）所収、2019年3月（単独訳）
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	